

ハチと泥棒

少し前のことですが、2017年は大きな出来事が2つありました。

一つ目は、7歳の頃から飼っていた愛犬のハチが死んだことです。近所のペットショップで、とても愛嬌を振りまいているのに、何故か生後6ヶ月まで売れ残っているところを、父が一目ぼれし連れてきました。人懐こく、近所のおじさんや知らない人にまでしっぽ振っていたため、家族とは「番犬にならないね。」等と話していました。

2つ目は泥棒が入ったことです。幸い被害は軽く、リビングの窓ガラスが割られ、物が少し盗まれ

ただで済みました。窓を割った時に怪我をしたようで、泥棒の血が学習機の引出しと収納ケースに付着していました。

後日、泥棒はつかまりました。

警察の方が、家に訪ねてきて、「窓ガラスを割った時に左側に気配を感じた。」と言っていますが何か心当たりはありますか、と聞いてきました。割られた窓の横には、ハチの遺骨が置いてありました。人懐こ過ぎて生前は終ぞ番犬にはなりませんでしたが、死んでから番犬として泥棒に噛みついてくれたのだと思っています。

編集後記

新年度となりまして、新型コロナウイルス感染拡大の影響は続きますが、JWセンターでは、Webツール等を取り入れ、各種事業の安定的な運営とニーズに対応した事業展開を推進してまいります。

本号から冬号までの1年間、コラムは環境カウンセラー・ジャーナリストの崎田氏に、連載「語る」は引き続き上智大学の北村氏に、それぞれご専門の立場からご執筆いただきます。

電子マニフェストユーザー事例紹介では雪印メグミルク様の導入例を紹介しています。排出量やリサイクル率の算出にあたり電子化されたマニフェスト情報を活用することで、

データの信頼性が向上したことなどをメリットに挙げています。

本年1月から3月まで緊急事態宣言が発出され、在宅勤務、移動の自粛等により「産廃クローズアップ」の取材記事をお休みしております。また、巻末の「近隣散策」では、当センター（東京都千代田区）の近隣ではなく、広報室担当の“自宅の”近隣散策記事となっております。東京都内でもまだ自然が残る水辺の様子を文と写真でお届けします。

最後になりましたが、ご多忙の中、記事をお寄せいただいた執筆者の皆様、編集にご協力いただいた皆様、本誌を読んでくださった読者の皆様に心から感謝申し上げます。

(広報室)

■本誌に関する連絡先：総務部広報室（e-mail：jigyo@jwnet.or.jp）

〈アンケートへのご協力のお願い〉

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ（以下のURL）に掲載しています。本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JWセンター情報（季刊）VOL.21 NO.1 発行日：2021年4月15日発行 発行人：関 荘一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒102-0084 東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア7階
TEL：03-5275-7111 FAX：03-5275-7112 <https://www.jwnet.or.jp/>
デザイン・印刷：大日本法令印刷株式会社